

令和4年度

県民カレッジ連携講座

高志の国文学館 文学講座 (大学連携シリーズ)

受講料
無料

県内大学の協力を得て、
富山県ゆかりの「ふるさと文学」はもとより、
企画展示にあわせて、広く歴史や文化を探訪する文学講座を実施します。

開催日及び講師

第1回

5月29日(日) 外国児童文学の中の日本人—多文化社会の“人種”への感受性

富山国際大学 現代社会学部 教授 **渡部 恵子 氏**



第2回

6月4日(土) 『承久記』諸本の特色を考える

富山大学 学術研究部人文科学系 講師 **長村 祥知 氏**



第3回

6月18日(土) 建造物の健全性の診断—その道路、通っていいですか?—

富山大学 学術研究部都市デザイン学系 准教授 **河野 哲也 氏**



第4回

7月2日(土) 『家なき子』の作者エクトール・マロの社会派小説

富山大学 学術研究部人文科学系 准教授 **梅澤 礼 氏**



時 間 14:00～15:30

場 所 高志の国文学館 研修室101 定 員 **54名**(定員に達し次第、締切)

申込方法 裏面の受講申込書に必要事項を記入し、郵送またはFAXにて高志の国文学館まで送付してください。
(お電話でのお申込みも受け付けます。)

※受講票などは送付いたしません。(定員に達し、受講いただけない場合のみご連絡します。)

そ の 他 3講座以上受講された方には、希望により県民カレッジの単位(5単位)が認定されます。

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、
右記の点についてお守りいただくようお願い申し上げます。

①マスクを着用し、咳エチケットの順守にご協力ください。
②咳や発熱などの症状がみられる方は、ご来場をお控えください。

問 合 せ
申 込 み 先

おかげさまで10周年 感動とのであい

高志の国文学館

〒930-0095 富山市舟橋南町2-22

TEL:076-431-5492 FAX:076-431-5490

高志の国文学館では、facebook、twitter、instagramで
最新情報を発信しています。ぜひフォローしてください!



facebook



twitter



instagram

主 催 / 高志の国文学館 協 力 / 富山大学・富山国際大学

受講申込書

ふりがな氏名	
住所	(県民カレッジ単位希望者のみ記載してください) 〒
連絡先	TEL : - - FAX : - -

受講を希望する講座に○をつけてください(複数可)

	日	講演題	講師	講座内容
1	5/29 (日)	外国児童文学の中の日本人 —多文化社会の“人種”への感受性	<small>わたなべ けいこ</small> 渡部 恵子氏 <small>富山国際大学 現代社会学部 教授</small>	海外の児童文学には、社会の問題意識を映す良書が数多くあります。移民との共生の歴史が長い英国や移民国家・米国で、日本人がどう描かれているか、“人種”に対する態度はどのようなものか—その一端を示す作品に触れることは、外国人住民が急増し、多文化共生が求められる今日の日本に住む私たちにとって深い学びの機会になります。しかも、作品は読みやすく面白い!大人にも、そしてもちろん十代の方にも知ってほしい。
2	6/4 (土)	『承久記』諸本の特色を考える	<small>ながむら よしとも</small> 長村 祥知氏 <small>富山大学 学術研究部 人文科学系 講師</small>	承久3年(1221)、鎌倉幕府の執権北条義時は、後鳥羽上皇の追討命令の対象となりますが、合戦に勝利し、上皇を隠岐に流しました。この承久の乱の顛末を記す『承久記』は、『保元物語』『平治物語』『平家物語』と並ぶ重要な軍記物語でありながら、本文の比較検討や注釈は他の三作品ほどには進んでいません。『承久記』諸本の相違や流布本系の写本と版本、絵巻への展開など、様々な論点を考えながら、じっくり読もうと思います。
3	6/18 (土)	建造物の健全性の診断 —その道路、通っていいですか?—	<small>こうの てつや</small> 河野 哲也氏 <small>富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 准教授</small>	日本の交通網の大部分は、高度経済成長期に建設された建造物によって形成されています。現在、これらの建造物の維持管理が鋭意進められていますが、コスト・時間の縮減など、維持管理のさらなる合理化が求められています。今回の講演では、現在の道路建造物がどのような状態にあり、どのような維持管理がなされているのか、今後の維持管理や建造物の建設においてはどのようなことが求められるのかを、富山県内の道路建造物の実態も踏まえながら考えたいと思います。
4	7/2 (土)	『家なき子』の作者エクトール・マロの社会派小説	<small>うめざわ あや</small> 梅澤 礼氏 <small>富山大学 学術研究部 人文科学系 准教授</small>	昔TV放送されていたアニメ『家なき子』を覚えていらっしゃる方は多いと思います。母親を探して子供が旅をするこの物語の原作者エクトール・マロは、日本でもフランスでも児童文学作家とみなされてきました。ところが近年、マロがむしろ、司法や精神病院のあり方を批判する、大人向けの作品によって19世紀の人々に知られていたことが明らかになってきたのです。本講演ではこうした、マロの社会派小説とその特徴をご紹介します。

※取得した個人情報は、本講座以外の目的で使用することはありません。

<FAXでの申込み先> 高志の国文学館 〒930-0095 富山市舟橋南町2-22 FAX 076-431-5490

※表面の電話番号で、口頭でのお申込みも受け付けています。